

関係代名詞⑥

次はもう1つの複合関係代名詞

whateverをやろう。

これも複雑そうに見えて、基本的な考え方は **what** と同様、順を追って考えると分かりやすい。

以下、例を使って検討していく。

例①

Do **anything**.

まず、この文中の anything を見てほしい。

この anything を分解すると

any

あらゆる

thing

こと
もの

あらゆること(もの)という意味になるね。
よって、

Do **anything.**

を直訳すると、

「**あらゆること(もの)**をやりなさい。」

となり、それを意識すれば、

「**なんでも**やりなさい。」

となるわけだ。

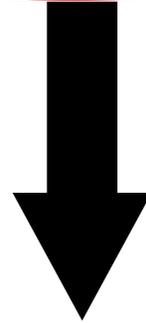
なので、今回は

anything
あらゆること

と訳すことにして、
これを前提に話を進めて行く。

Do anything.

この文から、



anything

を抜き出す (前の Do は無視)

この

anything

↑ だけに着目して

あなたはそれらが正しいと思う。

↑ という英文を作ると、

You think they are right.

となる。

↑ この You think they are right.

という文は、

anythingに関する文なので、

anythingの直後にくっつける。

すると、

anything you think **they** are right.

となり、

Do を戻すと

Do **anything** you think
they are right.

となる。

この You think **they** are right. という文に、

anything を修飾させるには、このままでは
ダメなので、

以下の表に基づいて関係代名詞
に変換する。

	主格	所有格	目的格	所有代名詞
それら	they	their	them	theirs
関係代名詞	which	whose	which	whose

↑ they に対応する関係
代名詞は which なので

Do anything you think
which are right. となつて、

関係代名詞は常に修飾する語句
の直後に置くので、

Do anything you think **which** are right.

Do anything **which** you think are right.

となるね。

これで、You think they are right.に
anythingを修飾させることができた。

これをどう日本語に訳すかということ
関係代名詞の後ろから訳す
(関係代名詞そのものは訳さない)。

関係代名詞 which の後ろから

anything which you think are right.

あらゆること

あなたが正しいと思う

「あなたが正しいと思うあらゆること」
と訳す。

すると、

Do anything which you think are right.

「(あなたが正しいと思うあらゆること)
をやりなさい。」

↓ 意識すると

「正しいと思うことはなんでもやりなさい。」

となるね。

ここまでは関係代名詞 which の話だ。
今回はこうしてできた

Do **anything which** you think are right.
の



この部分を、
複合関係代名詞 **whatever** に置き換える。

すると、

Do **whatever** you think are right.

となる。

これが、複合関係代名詞
whatever の使い方だ。

要するに、「複合」というのは、

anything

↑ 関係代名詞で修飾される単語
(先行詞という)

と、関係代名詞 which が

anything + which

複合して



whatever

ができました

ということだ。

なので、

anything which=whatever

という公式が成り立つ。

※ただ、厳密にはこの場合は、
anything **which**=whatever ではなく、
anything **that**=whatever
と考えるのが正しいのだけど、それはまた後日検討する。
とりあえず現段階では、anything which=whatever
と考えてOK。

もう1パターン検討しよう。

例②

Read any books.

まずこの文中の any book を分解すると、

any

あらゆる

books

本

「あらゆる本」という意味になる。

よって、

Read **any** **books.**

を直訳すると、

「あらゆる本を読みなさい。」

となり、それを意訳すれば、

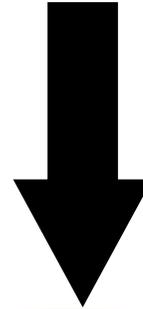
「本はなんでも読みなさい。」

となる。

これを前提に考えていく。

Read **any books.**

この文から、



any books

を抜き出す (前の Read は無視)

この

any books

↑ だけに着目して

「それらは読む価値がある。」

↑ という英文を作ると、

They are worth reading.

となる。

be worth ~ing
~する価値がある

↑ この **They** are worth reading.

という文は、

any books に関する文なので、

any books の直後にくっつける。

すると、

any books **they** are worth reading.

となり、

Read を戻すと

Read **any books** **they** are
worth reading.

となる。

この **They** are worth reading. という文に、

anything を修飾させるには、このままでは

ダメなので、

以下の表に基づいて関係代名詞
に変換する。

	主格	所有格	目的格	所有代名詞
それら	they	their	them	theirs
関係代名詞	which	whose	which	whose

↑ they に対応する関係
代名詞は which なので

Read any books which are
worth reading. となる。

これで、You think they are right.に
anythingを修飾させることができた。

これをどう日本語に訳すかということ
関係代名詞の後ろから訳す
(関係代名詞そのものは訳さない)。

関係代名詞 which の後ろから

any books which are worth reading.

あらゆる本

読む価値がある

「読む価値があるあらゆる本」
と訳す。

すると、

Read **any books** **which** are worth
reading.

「(読む価値があるあらゆる本)を読みなさい。」
となつて、

↓ 意識すると

「読む価値がある本はなんでも読みなさい。」
となるね。

こうしてできた

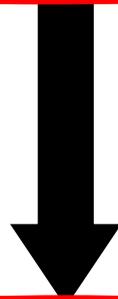
Read **any books which** are worth
reading. の



この部分を、

whatever books に置き換える。

any books which



whatever books

すると、

Read **whatever books** are worth reading.

となる

つまり、

anything which のときの

w h a t e v e r

あらゆる物 (名詞)

この名詞自体に関係代名詞の機能
(後ろから修飾する機能)が備わっている

any books which のときの

→ whatever

books

あらゆる (形容詞) + 本 (名詞)

この形容詞+名詞の箇所に関係代名詞の機能
(後ろから修飾する機能) が備わっている

と考えられる。

まあこれは少し複雑に考えすぎかも分からないけど、

とりあえず、

any ~ which
= whatever ~

の公式だ。

最後の方は複雑だから、自分でも説明に窮したけど(笑、
複合関係代名詞を詰めて考えるとこんな感じだね。

別に覚える必要はない。読んでなるほどと納得したら OK👏

次回はまた関係副詞に戻って、**when** をやろう。

これも関係副詞の **where** と本質は一緒だから、分かりやすいと思う。

→関係副詞②につづく